

本 会 記 事

1 昭和45年度総会ならびに研究発表会

四国植物防疫研究協議会昭和45年度総会ならびに研究発表会は、11月19～20日、愛媛県PTA会館（松山市）において開催され、約100名が出席しました。

(1) 総 会

11月19日午後1時から開かれた総会では、昭和44年度会務報告が承認された後、昭和45年度事業計画ならびに予算が上程され、原案どおり承認されました。

(2) 協 議

11月19日午後2時から、①ツマグロヨコバイに対するカーバメイト剤の効力低下の実態と問題点（愛媛農試 清家安長氏話題提供）、②農薬の残留問題とその対策（高知農林技研 桐谷圭治氏話題提供）、③各県提出議題、について討議がおこなわれました。なお、本誌1～44ページの特集は、桐谷氏の講演のうち、塩素系殺虫剤の環境汚染に関するものを総説的にまとめていただいたものです。

(3) 研究発表会

11月20日午前9時から、つぎの10題の研究発表がおこなわれました。

上原 等^{*}・都崎芳久：キュウリ緑斑モザイクウイルスによるスイカモザイク病の伝染に関する2，3の研究

木谷清美・木曾 皓^{*}：スイカ体内におけるキュウリ緑斑モザイクウイルス（スイカ系）の探索

福西 務^{*}・山本 勉・須藤真平：うり類疫病の被害と実態

倉田宗良^{*}・斉藤 正：ピーマンうどんこ病菌分生胞子の発芽に関する2，3の研究

山中久明：ハスモンヨトウのふ化幼虫集団に対するクモの影響

松崎征美：イネアカアブラムシの翅型決定機構

野口義弘：スミチオン散布直後の降雨がニカメイチュウの防除効果に及ぼす影響

大森尚典^{*}・松本英紀：樹冠表面散布による柑きつ病害の防除効果

重松嘉昭・吉岡幸治郎^{*}・橋田信行：香料ゼラニウムのてんぐ巢病に関する研究

斉藤 正・古谷真二^{*}：イネ稚苗移植における紋枯病の発生推移と薬剤の防除効果
（*は演者）

2 明年度総会

昭和46年度の本会総会は、本年秋、香川県において開催される予定です。

3 編集委員長代行の委託

河野達郎編集委員長は、本年2月1日付をもって農業技術研究所昆虫科長に転出されました。そこで、2月8日の事務局会議（事務所所在地の役員によって構成）において、木谷清美副会長に編集委員長代行を委託することとなりました。